



災害に強い商店街を

帯広電信通り

帯広市の帯広電信通り商店街に、備蓄庫を備えた災害時の一時避難所「絆」が開設された。36店でつくる同商店街振興組合が、東日本大震災を受け、災害に強い商店街づくりを目標に設けた。こうした施設を商店街が開設したのは道内では珍しいという。

避難所は、同市東2条南6丁目にある商店2階の空きスペース約100平方メートルを改装した。20〜30人が避難できる広さ13×18畳の3部屋のほか、備蓄庫や台所などを設け、布団や毛布、消

一時避難所開設、防災拠点に

火器、ヘルメット、発電機といった生活必需品や防災用品を常備している。開設式のあった10日には、地域の町内会や老人クラブなど4団体と利用に関する連携協定、建設会社やコンビニエンスストアとは高齢者の避難支援、食料品の優先供給の連携協定を締結した。

同商店街は水害が発生した場合に1〜2階の浸水が予想され、過去には冠水の被害もあったという。地震や水害などで生活や帰宅が困難になった高齢者や障害者らの一時避難所となるほか、防災に関する講習会や勉強会などを開き、啓発活動も進める。

長谷渉理事長は「施設を有効に活用し、地域の連帯と絆を深めながら、より安心・安全な商店街づくりに努めたい」と話している。

一時避難所に備蓄されている
防災用品は帯広市東2条南6
丁目